

菊池公園の日常的利用に関する考察

熊本大学 学生会員 菊地宏太郎 熊本大学大学院 学生会員 ○高松悠馬
熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

日本の公園行政は、建設中心時代から本格的に管理運営の時代へと移り変わってきている¹⁾。少子高齢化に伴う人口減少により財政難を抱える自治体では、老朽化した公園等の施設の再整備や維持管理が困難となっている。また、近年人々のライフスタイルや価値観は多様化しており²⁾、地域のニーズに公園の整備が追いついていない。さらに、2019年末から現在もなお続く新型コロナウイルスの流行により、感染防止のため3密を避け、健康二次被害の対策としても活動を行える屋外空間が求められている。以上の背景から、地方都市において地域住民が日常的に利用しやすい公園について考える必要がある。日常利用の重要性については、園田³⁾も言及している。そこで、地方都市の主要な公園であり、再整備が行われ始めている菊池公園の日常的な利用に着目した。

本研究の目的は、菊池公園の日常的利用の実態を考察することである。そのために、菊池公園の空間構成を分析した上で、日常的な利用実態を調査し、その分析を行った。

2. 菊池公園の概要

本章では、研究対象地である菊池公園が位置する菊池市の概要や菊池公園の空間構成を整理した。

(1) 菊池市の概要

菊池市は熊本県北東部に位置し、総人口47,968人(2020年11月現在)、総面積276.66km²である。また、2005年に1市2町1村(旧菊池市、七城町、旭志村、泗水町)が合併し、現在の菊池市となった。

菊池市のまちづくりは、「菊池市の豊かな自然環境や歴史を生かし、人のやさしさでつくりあげる健康で活力なまちづくり」を理念のもと、総合的な目標として市の将来像を『自然の恵みを守り、自然を活かして穏やかな発展を続けていくー安心・安全の「癒しの里」きくちー』⁴⁾と定められている。

(2) 対象地の概要

対象地は菊池市ふるさと創生市民広場を含む、菊池

公園一帯で、隣接する公園・広場を一帯的にとらえる。また、中心市街地のすぐ近くに位置しており、菊池神社と温泉街に隣接している。菊池公園は、面積302,000m²と菊池市では最も広く、自然豊かな都市公園である。

(3) 菊池公園の空間構成

対象地である菊池公園一帯を4つのエリアに分けた(図-1、図-2)。



図-1 菊池公園の全体図



図-2 各エリア

(a)グラウンド周辺は、多目的グラウンドやテニスコートといった有料施設、遊具・アスレチック、展望所等の施設がある。(b)十月桜地区は芝生広場が三段構成となっている。(c)城山地区は傾斜が激しく木々に覆われている通り道で、市民広場から十月桜地区やグラウンド周辺に歩いてアクセスできる。(d)市民広場は城山のふもとに位置し、「きくちの魅力を発信し、賑わいを創出する拠点」「癒しとふれあいの交流する空間」として

2019年春にリニューアルオープンした。騎馬像広場に芝生広場や遊具広場、全天候型の大屋根広場、足湯等の施設がある空間である。きくち観光物産館、菊池観光交流館にも隣接している。

3. 菊池公園の利用実態調査

(1) 調査手法

調査手法は、目視及び定点カメラによるビデオ撮影を用いた観察調査である。調査日は12/17(木：平日)、12/19(土：休日)の2日間、調査時間は日常的な利用が想定される9:00~10:00、11:30~12:30、13:30~14:30、16:00~17:00の各日計4回、各60分間観察調査を行った。天候は晴れ。調査項目は性別、年代、グループ構成、活動内容、活動場所である。調査員は計6~8名で行った。1月にも同様の調査を行う予定である。

(2) 調査結果

本節では、各エリアでの日常的な利用実態調査の結果を整理し、分析した。

表-1 利用者数

		(a)グラウンド周辺		(b)十月桜地区		(c)城山地区		(d)市民広場		計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
平日	9:00~10:00	34	7	3	0	3	2	23	30	63
	11:30~12:30	10	7	0	0	5	5	13	18	28
	13:30~14:30	35	29	2	1	7	5	19	25	63
	16:00~17:00	29	34	1	3	3	3	9	39	42
	計	108	77	6	4	18	15	64	112	208
休日		185		10		33		176		404
	9:00~10:00	18	15	1	0	5	1	27	9	51
	11:30~12:30	22	16	3	2	3	8	26	42	68
	13:30~14:30	27	34	2	1	1	5	61	56	91
	16:00~17:00	17	19	3	2	4	2	47	54	71
	計	84	85	9	5	13	16	161	161	267
		169		14		29		322		534

表-2 年代

	年齢(%)						
	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
平日	4.9	10.4	3.6	7.5	9.3	12.7	51.5
休日	26.1	4.6	7.3	19.4	9.6	10.7	27.7

利用者数:利用者数の詳細を表-1に示した。菊池公園全体の一日を通した利用者数は、平日よりも休日の方が多結果となった。中でも(d)市民広場でその傾向が強く見られた。エリア別に見てみると、市民広場、グラウンド周辺、城山地区、十月桜地区の順で多かった。グラウンド周辺と市民広場は13:30~14:30が最も利用者が多かった。

男女:菊池公園全体の一日の男女別利用者数は、平日、休日とも男女で偏りは見られなかった。エリア別に見ると、休日はどのエリアも男女の偏りは見られなかった。しかし、平日は(a)グラウンド周辺は男性の方が多く、(d)市民広場では女性の方が多い傾向が見られた(表-1)。

年代:利用者の年代を7段階に分け、その割合を表-2に

示した。一日の利用者を年代別に見ると、60歳以上の割合が最も高く、休日よりも平日の方が高い結果となった。また、10歳未満と30代の割合は休日が高い結果となった。

活動内容:各エリアの主な活動内容を見ると、(a)グラウンド周辺は散歩、遊具、(b)十月桜地区・(c)城山地区では散歩、(d)市民広場では散歩、遊具、遊具周りの動的活動や飲食、騎馬像周りの階段・ベンチでの休憩や飲食が見られた。全てのエリアで散歩が一定数見られ、設えの豊富な(d)市民広場では多様なアクティビティが見受けられた。そこで、活動を散歩型(散歩、犬の散歩、ランニング)と滞留型(動きのある活動、座っての活動、立ち止まっての活動)に分けて分析を行っていく。ここでは(d)市民広場での活動を示した(図-3)。

そして、各エリアで平日・休日や時間帯での利用者属性・活動内容の違いや散歩型、滞留型の利用実態を詳細に分析していく。

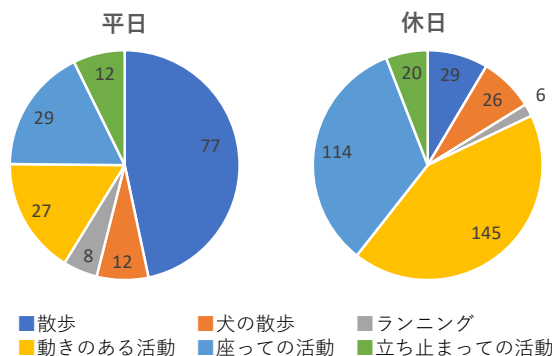


図-3 市民広場の活動割合

4. おわりに

各エリアの利用実態を明らかにし、利用の特徴を把握することができた。今後は、日常的利用と考えられる散歩と居場所について詳細に分析し、日常的な利用を促進する公園環境について分析する。

参考文献

- 1) 赤澤宏樹, 藤本真理, 武田重昭, 中瀬勲: 兵庫県立西部庫公園におけるコミュニティ型協議会によるパークマネジメント, ランドスケープ研究, Vol. 74, No. 5, 2011年.
- 2) 鈴木崇之, 石川徹, 貞広幸雄, 浅見泰司: 都市施設が居住者のまちへの愛着に及ぼす影響に関する研究, 公益財団法人日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol. 46, No. 3, 2011年10月.
- 3) 園田聡: プレイスメイキング アクティビティ・ファーストの都市デザイン, 学芸出版社, 2019年.
- 4) 菊池市 HP 第2次菊池市総合計画.